

1. 地域の医療機関との連携強化について ～渉外活動の実践と考察から～

戸田病院 地域医療連携室 武内 淳 清水由美恵
大野 等

はじめに

平成23年度高仁会学会にあたり、地域医療連携室では「地域の医療機関との連携強化について」をテーマと致しました。

本論では、渉外活動に焦点を当て、近年の精神科医療を取り巻く環境の変化を踏まえて、連携室の取り組み、および現状の分析から今後の課題を論じていくものとします。

近年の傾向

1. 精神科クリニックの増加
 - ・患者のニーズの多様化
 - ・病気の概念の拡大（深化・細分化）
2. 精神科への通院患者の増加
 - ・精神科受診の偏見や抵抗感の減少
 - ・人間関係の希薄化・抛り所の消失
 - ・専門性への信頼・依存

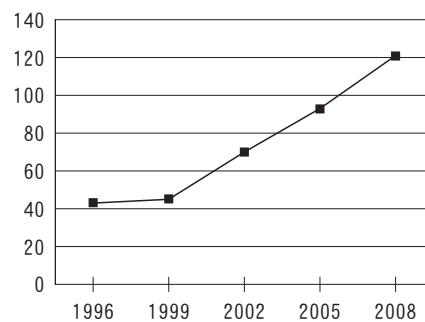
精神科医療を取り巻く環境として、1980年代より精神科や心療内科などを標榜するクリニックが増加し続けています。一方、社会の変遷では、いくつかのパラダイムシフトを経て、ストレス社会の深刻化が叫ばれるようになりました。こうした中、メンタル面の不調を訴え、精神科クリニックを訪れる人の数も増加の一途を辿っています。

近年にいたると、精神疾患に対する学術的な研究も進み、病気そのもののありようが変化したり、概念が拡大したりもしています。さらに、メディアへの露出が増えたことも影響し、以前に比べて「精神科を受診する」ことへの抵抗感も軽減されてきたといえます。このような状況を受け、精神科への通院患者は300万人を超える規模と

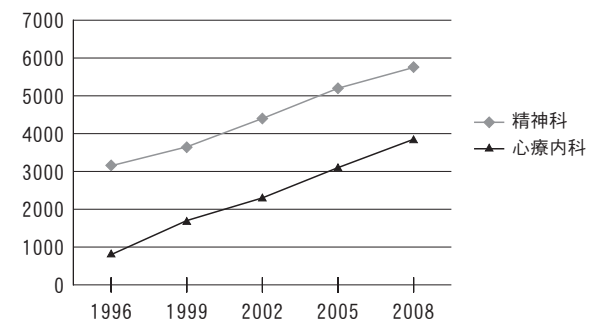
なり、患者のニーズも多様化しているといえます。

資料①：患者、施設数推移

気分障害患者数の推移



精神科・心療内科クリニック数の推移（重複計上）



精神科通院患者の増加の中でも、特に気分障害圏の患者は、上の表に示したように2000年代に入って急速に増加しており、10年間でおおよそ3倍に膨れ上がっています。また、精神科や心療内科を標榜するクリニックはまさに右肩上がり増加し続けており、特に心療内科を標榜するクリニックは10年間でおおよそ4倍になっています。

こうした現状を踏まえますと、地域に根ざした総合病院に加えて、既存・新規を問わず、地域に点在するクリニックともより一層の協力関係を構築していくことが急務であり、一人でも多くの患者さんに良質な

医療を提供し、数ある精神科病院の中から「戸田病院」を選んでいただけるように努めていくことが肝要といえます。

連携室の取り組み

渉外活動とは、ほかのクリニックや病院、公的機関の関係者を訪れ、当院の魅力を伝える仕事です。言い換えれば、数ある医療機関からここぞという時に紹介先として選択してもらうことを目的に、当院の概要や費用の概算、利点、強みなどを先方に周知していく業務です。

これに付して、先方からいただけるわずかな時間の中でも、そうしたメリットを十分に伝えるために、説明パネルといったツールを用いて効果的にみせるように留意しています。

また、当院からの情報発信だけにとどまらず、先方の情報を収集することも重要です。

どのような患者を、どういった病棟で受け入れ、専門治療を行い、紹介元への再度の通院と繋げていくことで、win-winの関係となることを真摯に説明し、信頼関係をより一層強固にしていくことが肝要です。

渉外活動の件数

本論では、集計するデータを

表1：平成21年9月から平成22年8月まで、および

表2：平成22年9月から平成23年8月までの1年間ずつとしています。

これは昨年9月から病棟調整PSWが配置されたことに付随し、渉外活動に注力することになったことによります。

表1においては、月ごとの最少件数が4件、最大件数が70件、合計は345件（月平均は約29件）です。

表2においては、月ごとの最少件数が20件、最大件数が83件、合計は701件（月平均は約58件）です。

資料②：渉外活動の件数

表1 平成21年9月～平成22年8月

	診療所	病院	その他	合計
平成21年9月	6	1	0	7
10月	34	4	7	45
11月	35	28	7	70
12月	31	33	1	65
平成22年1月	17	2	1	20
2月	18	10	4	32
3月	12	9	0	21
4月	12	8	0	20
5月	1	10	0	11
6月	2	2	0	4
7月	11	11	4	26
8月	12	11	1	24
小計	191	129	25	345

表2 平成22年9月～平成23年8月

	診療所	病院	その他	合計
平成22年9月	30	20	0	50
10月	53	20	3	76
11月	55	21	0	76
12月	47	35	1	83
平成23年1月	27	44	1	72
2月	14	6	0	20
3月	7	24	0	31
4月	7	35	0	42
5月	32	0	1	33
6月	56	21	0	77
7月	71	8	0	79
8月	27	35	0	62
小計	426	269	6	701

これに反映されない数値としては、各医療機関や公的機関などに対し、当院の近況などについて電話で連絡することもあります。

入院経緯別件数

資料③-1は平成21年9月から平成22年8月において、実際に当院に入院となった患者の経緯をまとめたものです。

系列を除く医療機関からの実績は331件で、全体の43.6%を占めています。通院中の患者の入院件数が187件ですので、おおよそ2倍弱の数字となっています。

資料③-2は平成22年9月から平成23年8月において、実際に当院に入院となった患者の経緯をまとめたものです。

系列を除く医療機関からの実績は487件で、全体の52.9%を占めています。

資料③- 1 : 入院経緯別件数

平成21年9月～平成22年8月

月	平成21年				平成22年								
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
通院中	9	14	13	13	14	14	24	23	20	12	19	12	187
系列小計	8	6	4	6	9	8	8	8	10	13	7	9	96
川口病院	3	2	0	1	1	1	3	5	3	6	3	5	33
川口クリニック	3	3	3	1	6	6	3	3	4	4	3	2	41
コスモス苑	2	1	1	4	2	1	2	0	3	3	1	2	22
医療機関	27	26	26	39	20	18	28	41	18	24	36	28	331
精神科病院	8	3	7	6	2	2	4	2	0	1	6	4	45
精神科クリニック	7	5	7	11	8	6	10	16	7	9	16	12	114
一般病院	10	14	8	19	10	6	13	16	7	8	13	8	132
一般クリニック	2	4	4	3	0	4	1	7	4	6	1	4	40
保健所	1	4	3	3	2	2	2	0	3	3	2	1	26
市区町村	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	4
その他	5	6	6	10	5	2	4	8	4	9	7	7	73
帰院	3	3	5	7	5	3	2	2	5	3	1	3	42
合計	53	59	57	78	56	48	68	82	61	64	72	61	759

資料③- 2 : 入院経緯別件数

平成22年9月～平成23年8月

月	平成22年				平成23年								
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
通院中	14	22	9	19	15	14	15	14	10	17	9	13	171
系列小計	8	8	11	7	8	13	12	10	12	17	10	10	126
川口病院	4	2	5	1	0	1	3	6	2	3	2	4	33
川口クリニック	3	5	4	3	5	4	5	4	7	12	6	2	60
コスモス苑	1	1	2	3	3	8	4	0	3	0	0	0	25
医療機関	38	26	43	41	38	30	36	50	38	45	62	40	487
精神科病院	5	2	3	5	5	3	3	5	5	5	7	4	52
精神科クリニック	19	9	15	10	13	11	19	12	10	15	19	15	167
一般病院	7	11	20	24	18	16	12	28	23	20	30	14	223
一般クリニック	7	4	5	2	2	0	2	5	0	5	6	7	45
保健所	2	1	3	2	2	0	1	0	3	3	3	2	22
市区町村	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
その他	2	7	6	5	5	7	5	6	7	4	6	0	60
帰院	1	4	3	6	4	8	6	4	2	8	3	3	52
合計	65	68	75	80	72	72	75	85	73	95	93	68	921

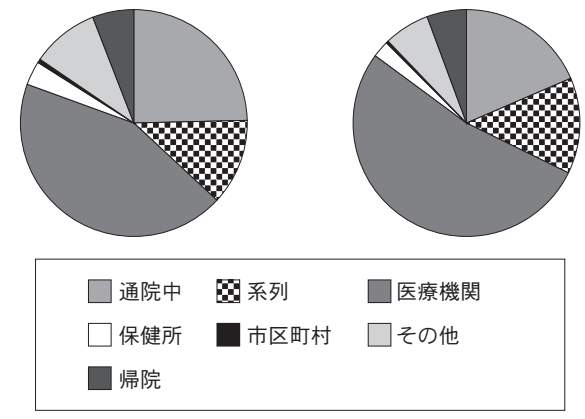
医療機関からの紹介件数の割合は、1年間で約10%増加しています。件数で比較すると精神科クリニックで53件、一般病院では91件、全体では156件の増加と、約1.5倍となっていることに注目できます。

入院件数は759件から921件と162件増加しており、医療機関からの紹介が当院において、いかに重要な位置づけとなっているかが鮮明に示されています。

一年間の集計の比較ですが、その推移が見て取れるものと思います。

資料④ : 入院経緯割合比較

平成21年9月～平成22年8月 平成22年9月～平成23年8月



全体では通院中の患者の入院の割合が約6%減少し、反面、医療機関からの紹介件数の割合が約10%増加しています。

ほかの項目の推移に大きな特徴が見受けられないだけに、今後もこの傾向が続くものと思われます。

考察

資料①～④に鑑みると、渉外活動の件数と入院患者数の増加とは単純に比例関係にあるとは言いがたくなることがわかります。しかし、渉外活動の効果は即効性がある場合もあれば、遅発的に効果を見せることもあります。

例えば、渉外活動に赴いた医療機関からその場で入院相談を受けることもあれば、時期を置き、入院加療が必要な患者が出た時に紹介していただくこともあります。ゆえに、ここでは相関関係であると考えられます。

渉外活動の要は、多くの医療機関の中から信頼できる紹介先として患者に当院を紹介してもらうことです。

どれほどすぐれた治療や最善の環境を有していたとしても、その存在を知らなかったり、曖昧な情報しか把握していない場合はそれを活用することはできません。

一方で、鮮烈な内容であっても、記憶は徐々に薄れていきます。だからこそ、渉外

活動を継続的に行うことで常に新鮮な当院の情報を伝えていくとともに、相互の信頼関係を構築していく必要があります。

例えば、以前に患者さんを紹介していた実績がある医療機関に再度渉外活動を行う場合には、各病棟に配属されている病棟調整PSWと連携を図ることで、患者さんの入院中の様子や家族との関わり方、転帰といった普段の診療では得がたい情報を獲得し、それを先方にもフィードバックするなど、双方にメリットの生じさせるように努めています。

そして、入院が必要となる患者がいた場合には真っ先に当院のことをイメージしてもらえようとし、単発の紹介では終わらせず、二度三度と続けてもらうことが肝要であることを認識した上で、先方の期待値を超える結果を示して、CSを向上させることが地域の医療機関との連携強化につながると考えられます。

今後の課題

最後に渉外活動とその実績についての関係を踏まえ、今後の課題について3つ提示いたします。

まず1つ目は、渉外活動の効率化です。

渉外活動ではスタッフ1名が外勤に出て、限られた時間の中で、数カ所の医療機関を訪問し、記録を作成しています。より効率的に行動するためには、地勢、立地、交通の便などの事前情報を収集してノウハウを蓄積することが必要です。ホームページなどに掲載されている情報だけでは把握しきれないリアルな情報を実際の経験から補足していくことで、より効率性を上げることができると考えられます。

そのための試みとして、施設情報シートを作成し、表面的な情報だけでなく、歓迎されている、興味を持ってもらっている、要望があったといった訪問者が感じた機微、ニュアンス、インプレッションなどを記録して、次に訪問する者に継続できるように

しています。これによって、渉外活動対象の医師やPSWなどの個性に合わせた対応を事前に考慮することにも繋がっています。

2つ目は、スタッフのアピールポイントの平準化です。

渉外活動で先方に頂ける時間は基本的に短時間に限られます。ゆえに説明パネルなどを用い、伝えるべき情報のポイントを絞っています。これに加えて現地に赴くことでのみ得られる情報を記録や口頭伝達によってスタッフ間で共有することが重要です。

3つ目は、渉外先となる医療機関などの重点対象の選定です。

ある医療機関からはストレスケア病棟の入院対象となるような患者さんの紹介が多いか、といった紹介患者の疾患別件数などのデータを作成し、訪問時に活用しています。これを今後、さらに拡充していき、病棟調整PSWとも共有するなどして、病棟機能に沿った重点対象の絞込みを行っていくことが考えられます。

また、エリアごとの特性を把握することが重要です。

公共交通機関の発達などにより、物理的な距離ではなく時間距離についてその重要性を増してきて久しく、紹介元から紹介先までの移動にかかる時間は優先性の高い項目といえます。ゆえに地域性を把握し、伝えるべき情報を絞り込むことで渉外活動を一層意義あるものとすることができると考えられます。

地域医療連携室ではこれらの点を課題とし、さらに研鑽を積むことで、高仁会の発展に貢献していきたいと思えます。
